

I 学校の概要

思考力等の育成モデル校事業

高松市立屋島中学校

◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
5 学級 174 名	4 学級 154 名	5 学級 183 名	2 学級 10 名	16 学級 521 名

○教員数 31名

◆学校の特徴

高松市立屋島中学校は高松市東部に位置し、校区内には、景勝地「屋島」によって代表される源平の古戦場としての名所・旧跡が多数存在する。高松市中心部へのアクセス道路も整備され、電車・バス等の交通の便がよいため、住宅も増え、高松市中心部への通勤圏として発展していたが、近年は少子高齢化の影響を受け、人口は減少傾向にある。

近年は、家庭環境等に課題を抱える生徒が増えており、基礎学力が十分に身に付いていない生徒も増えてきた。そのため、学習面において上位層と下位層に隔たりが見られる二極化が問題となるとともに、最近では全体的な学力の低下も課題となっている。

II 研究主題等

研究主題

主体的な学びを育てる わかる授業の創造
～ 思考力・判断力・表現力を育む活動型授業を通して ～

◆研究主題設定の理由

本校の学校課題は、学力向上である。平成28年度の全国学力・学習状況調査において、国語A、B及び数学A、Bは全国平均を上回ったが、国語A、B及び数学Bは県平均を下回っている。また、香川県学習状況調査においても、第1学年が県平均を数学と英語で下回り、第2学年はすべての教科で下回っている。

香川県学習状況調査の学習に対する一般的な質問では、ほぼ県平均と同レベルにあるにも関わらず、本校の考える活動型授業に関わる話し合い活動など特定の質問では軒並みマイナスの状況であった。

このような本校の実態を踏まえ、まずは主体的な学びを目的とした活動型授業を展開し、同時に基礎・基本の定着を図りつつ、思考力・判断力・表現力を育み、確かな学力の向上をめざしたいと考える。

◆研究内容及び方法

研究内容については、各教科の現状と課題（各教科等における学習指導要領改訂の具体的な方向性に伴う課題等）、平成 28 年度の学習状況調査等や日々の学習指導等を踏まえ、協議・分析された本校生徒の実態・課題などを総合的に判断した上で、主体的な学びを目的とした活動型授業に取り組み、並行して基礎・基本の定着を図り、上位目標として思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

全教科共通で取り組む視点としては、以下の取組を設定する。

- (1) 全教科において、「計算力」又は「書く力」の向上を重視した指導法を研究する。
- (2) 土曜朝塾や毎週水曜日放課後に行うマイ・スタディの取組を通して、思考力・判断力・表現力の育成を支える基礎・基本の定着を図る。
- (3) 各教科において、活動し考える場面や、活動し表現する場面を設定した活動型の授業を実践する。
- (4) 全教科において、思考力・判断力・表現力の育成を目指した単元構成のデザイン化を推進する。

各教科、各個人においては、上記以外にも日々の授業、実践授業等で課題解決に向けた取組を行い、評価・改善を図る。その際、「さぬきの授業 基礎・基本」、「特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト」を始めとするUDの視点などを参考に、指導スキルの面からも活動型授業との関わりから見直しを進めたい。

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

本研究の検証については以下の方法で行う。

- (1) 例年実施している学校評価のアンケートを、学習状況調査における質問紙調査と一体的に再検討し、本研究の検証、生徒の変容を目的とした項目を設定する。
- (2) 具体的には「研究成果の参考とする 10 の指標」を中心に平成 28 年度・平成 29 年度のデータの分析を通して検証する。
- (3) 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の質問紙調査のデータを補足資料として活用する。

Ⅳ 研究成果の普及方法

本研究に関連した取組はこれまでも継続して行ってきたが、本年度研究指定を受けたことで研究が深まり広がるものと思われる。だが、研究は推進すればするほど課題も出てくると思われるので、次年度以降においても継続研究とし、現職教育を通して授業改善に引き続き努めていきたい。

こうした本校の継続した研究の結果を次の課題設定につなぐと同時に、香中研の教科部会等への実践研究にも関連させたい。また、平成 29 年度香川の教育づくり発表会において、発表・交流を深め、より幅広い実践への契機となればと期待している。